『比較日本文化学研究』第 11 号（2018）

論　文

程度副詞に関する研究の現状と課題

劉　　傑

泰山学院講師・広島大学大学院文学研究科博士課程後期修了

Researches into adverbs of degree

LIU Jie

Abstract: Six aspects of the research status of adverbs of degree were surveyed. First, the research trends of adverbs of degree in Japanese and Chinese were reviewed. Comparative studies about adverbs of degree in the two languages were then introduced, highlighting some unsolved research topics on adverbs of degree. This study aims to guide more intensive researches into adverbs of degree.
Keywords: adverbs of degree, research status, topics

1　はじめに

本稿は、日本語の程度副詞と中国語の程度副詞の研究動向を概観し、未解決の研究課題を探り、程度副詞に関する研究を進めるための手掛かりを提供することを目的とする。

両言語の程度副詞に関するこれまでの研究は、研究の観点によって大きく分けると、「程度副詞と量的意味」「程度副詞と限界変化動詞・非限界変化動詞」「程度副詞と比較構文」「程度副詞が含意する主観性・評価性」「程度副詞とモダリティ表現の共起」「その他」の 6 つになる。本稿では、まず日本語の程度副詞と中国語の程度副詞のそれぞれについて自国語での研究状況を紹介し、次に中日対照研究の研究実態を述べる。

2　程度副詞の語群

日本語の程度副詞と中国語の程度副詞には、それぞれ次のようなものがある。これらの程度副詞は、日本語では工藤（1983）、森山（1985）、渡辺（1990）、

仁田（2002）、中国語では马真（1988）、周小兵（1995）、蔺璜・郭姝慧（2003）、张谊生（2010）で取り扱われている程度副詞から抽出したものである。

（A）程度が大きいことを表す程度副詞

日本語：とても、非常に、たいへん、きわめて、すごく
相当、かなり、けっこう、ずいぶん、あまりに（も）

中国語：很、非常、极、极其、相当、太、十分

（B）程度が小さいことを表す程度副詞

日本語：少し、少々、多少、いささか、ちょっと

中国語：有点、有些、稍微、略微、多少、稍稍、稍

（C）比較専用の程度副詞

日本語：もっと、いっそう、より、最も、一番

中国語：更、更加、还、最

これらの程度副詞は、これまでの対照研究で語彙的意味が対応すると見なされている。例えば、程度大の程度副詞「とても、非常に、きわめて、相当」と“很、非常、极、相当”、程度小の程度副詞「少し、少々、多少、ちょっと」と“稍微、略微、多少、有点”、二者間の比較を表す程度副詞「もっと」と“更”、三者以上での比較を表す「最も、一番」と“最”は、時衛国（2009）で既に比較対照されている。

また、唐先容・加藤（2003）では、『中日対訳コーパス』を用いて考察した結果、中国語の程度副詞“有点、有些、稍微、多少”は、日本語の程度副詞「少し、多少、ちょっと、少々」と並行的な対応関係を有していることが検証されている。具体的に言えば、日本語の「少し、多少、ちょっと、少々」は、動作性動詞を修飾するときには、中国語の“稍微、多少”という程度副詞が対応する場合がある。一方で、状態性述語を修飾するとき、中国語の“有点、有些”が対応していることが明らかになった（同 p.15）。

3　中日両国語の程度副詞の研究動向

3.1　程度副詞と量的意味―純粋程度副詞と量的程度副詞―

日本語の程度副詞は、行為動詞を修飾し量的意味を表しうるかどうかという観点から、純粋程度副詞と量的程度副詞に分けることができる。これにつ

いては、工藤（1983）、森山（1985）、仁田（2002）、佐野（2006）などの研究がある。まず工藤（1983）は、次のように指摘している。

> 程度とは状態の量だという面もあり、両者の交渉は当然ある。じっさい程度副詞の中には、「ごはんを_____食べた」のような量副詞の用法に立つものが、
> すこし、ちょっと、多少、少々　／　かなり、大分、随分　／　もっと
> など、少なからず存在する。（工藤 1983：179）

これに続いて、森山（1985：60-61）は、「金が（程度副詞）ある」というパターンが表現可能な、量的概念も内包する程度副詞を量的程度副詞、量的概念を内包せず純粋に程度だけを表す程度副詞を純粋程度副詞としている。

> 純粋程度副詞：
> 非常に、大変、はなはだ、著しく、極めて、ごく、すこぶる、
> あまりに／ずっと、より、最も、一番
> 量的程度副詞：
> かなり、随分、結構、やたら、なかなか、比較的、相当、
> 大分、わりあい、少し、ちょっと、多少、少々、ある程度、
> いささか／もっと

純粋程度副詞は、「大変困った」のように言えるが、「*大変歩いた」とは言えない。これに対して、量的程度副詞は、「随分困った」と「随分歩いた」のように程度も量も規定することができる。さらに、森山（1985：62-63）は、純粋程度副詞が修飾可能な動詞には、「悲しむ、喜ぶ、驚く」のような感情・感覚の動詞、「広がる、伸びる、増える」のような主体に進展性を持たせる動詞、「得をする、損をする、お金を使う、儲ける」のような量的関係の変化動詞、「優れる、馬鹿げる、不足する」のような性状動詞があると述べている[1]。

さらに、佐野（2006）は、量的程度副詞は、「動きの量」「時間量」「度数」「主体・対象の数量」を表すことができるとし、共起する動詞の性質によってその意味がどのように決まるのかを検討している。佐野によれば、量的程度副詞が行為動詞と共起し様々な意味を表すことができるのは、いずれの意味

にも「総体としての動きのエネルギー量の大小」を表すという共通点があるためであり、「総体としての動きのエネルギー量の大小」を表す最も中心的な用法は「動きの量」を表すものである。

しかし、上述したものをはじめとする従来の研究では、日本語の量的程度副詞が行為動詞を修飾する際の使用制限についてほとんど検討されておらず、量的程度副詞の語彙的意味に対する記述はまだ不十分であると思われる。そのため、同じく量的意味を表す程度副詞「少し、少々、多少、ちょっと」と「相当、かなり、結構、随分」の量的意味の決め方の違いが見えてこない。

中国語においては、张谊生（2004：6-59）が、“最（最も）、更（もっと）、稍微（少し）、太（あまりに）、很（とても）、有点（ちょっと）”を中心に考察し、その中の“最、更、太、很、有点”は“生气（怒る）、担心（心配する）、感动（感動する）、信任（信頼する）、尊敬（尊敬する）、重视（重視する）、失望（がっかりする）”など感情・態度に関わる動詞（句）や“有能力、有意义”などの動詞句を修飾することができるのに対して、“稍微”は“看（見る／読む）、等（待つ）”などの行為動詞を修飾し、行為量を規定することができると指摘している[2]。

行為量の規定という観点から、中国語と日本語の程度副詞の対照を行った研究には、時衛国（1999）（2008）（2009）など一連の研究がある。特に、時衛国（2008）では、程度性と量性の表し方という観点から、中日両国語の程度副詞を体系的に比較し、それぞれの文法的特徴について指摘している。まとめると次の二点になる。

一つ目は、行為量が規定可能かどうかによって、中国語の程度副詞も日本語と同じように二種類に分けることができるという指摘である。“稍微”“略微”“多少”はそれぞれ量的語句と共起すれば、行為などの時間の長短や数量の多寡などを言い表すことができるが、“更”“非常”“相当”“有点”などは行為動詞を修飾できない（時 2008：112）。

（1）稍微／略微／多少吃了一些水果。（「果物を少し食べた」の意）
（2）*更／*非常／*相当／*有点吃了一些水果。

行為動詞を修飾して行為量を規定することができるかどうかという観点からすれば、中国語の程度副詞と日本語の程度副詞は次のように対応している。

行為量規定可能な程度副詞：
中国語：稍微、略微、多少、稍稍、略略、微微、稍、略　など
日本語：少し、少々、ちょっと、かなり、相当、もっと　など
行為量規定不可能な程度副詞：
中国語：非常、十分、极、相当、最、顶、有点、太、更、还　など
日本語：非常に、大変、とても、極めて、最も、一番　など

二つ目は、中国語の程度副詞と日本語の程度副詞が行為量を規定する仕方の相違についての指摘である。中国語では、程度副詞が行為動詞を修飾する際には、「程度副詞＋動詞＋量的語句」という構造をとって、全体で行為の時間量、あるいはそれが及ぶ対象物の数・量などを規定することになる。したがって、“稍微”などは、文法上共起語句を必要とするものの、共起語句が置き換えられることによって、同一の動詞に対して、その数量的側面と時間的側面が共に規定できるようになる。（時 2008：114）

ただし、時衛国（2011a）（2011b）では、量的語句と共起する“特別”“格外”は行為量を規定する機能を持っているとされているが、“特別”“格外”は単に行為の特別性を表すだけで、行為量に関わるものではないと思われる。

3.2　程度副詞と限界変化動詞・非限界変化動詞

前述した通り、森山（1985）では、程度副詞は「伸びる、増える」のような動詞を修飾することがあると指摘されている。佐野（1998a）は、程度副詞が修飾する動詞の中に、「進展性に限界を持つ動詞」と「進展性に限界を持たない動詞」があると指摘し、「進展性に限界を持つ動詞」を修飾できるかどうかによって、下記のように程度副詞を「だいぶ」類と「非常に」類に分けている。「進展性に限界を持つ動詞」とは、「治る」のような、変化の進展に限界がある動詞であり、「進展性に限界を持たない動詞」とは、「広がる」のような、変化の進展に限界がない動詞である。後者は、後の仁田（2002）で「非限界変化動詞」と呼ばれているため、ここでは、それに対して「進展性に限界を持つ動詞」を「限界変化動詞」と呼ぶことにする。

佐野（1998a）で分類した「だいぶ」類の程度副詞と「非常に」類の程度副詞は、いずれも非限界変化動詞を修飾しうる（用例（３）参照）。しかし、「だいぶ」類と「非常に」類は、程度の規定の仕方が異なる。次の用例（４）か

ら分かるように、「だいぶ」は「変化の度合い（どの程度変化したか）」を表し、曇りの状態であっても天気が大きく変化した場合であれば用いることができる。これに対して、「非常に」は「結果状態の程度（変化後どの程度になったか）」を表し、「天気がよく、その程度が甚だしい」場合にしか用いることができない。

「だいぶ」類：だいぶ、かなり、少し、多少、ちょっと、やや、いささか、ずいぶん
「非常に」類：非常に、とても、はなはだ、すこぶる、たいへん、きわめて、なかなか　（佐野 1998a：19）

（3）領土がだいぶ／非常に広がった。
（4）（「激しい雨がやんで曇りの状態になった」という状況で）
a. だいぶ天気がよくなった。
b. *非常に天気がよくなった。（佐野 1998a：13）

このように「だいぶ」類と「非常に」類の違いは、限界変化動詞を修飾する際にも表れている。「だいぶ」類は「治る」といった限界変化動詞を修飾することができるが、「非常に」類はできない（用例（5）参照）。

（5）風邪がだいぶ／*非常に治った。

中国語の程度副詞について、麻彩霞（2013）では、比較を表す程度副詞“最、更”と程度が小さいことを表す程度副詞“稍微、略”は、“减少（減少する）、扩大（拡大する）、提高（高める）、压低（低める）”などを修飾することがあると指摘されている。ただし、“最、更”と“稍微、略”による程度の規定の仕方については言及されていない。

3.3　程度副詞と比較構文

渡辺（1990）は、比較構文に使われるか、またはプラス評価の語とマイナス評価の語のどちらを修飾しやすいかを基準に、程度副詞を「とても」類、「結構」類、「多少」類、「もっと」類の4つに分類している。程度副詞がプラ

ス評価の語を修飾するか、マイナス評価の語を修飾するかについては、次の3.4で述べる。ここでは、どのような程度副詞が比較構文に使われるかを見てみる。比較構文とは「XはYよりPだ」構文を指す（渡辺1990：2）。

「とても」類：とても、はなはだ、すこぶる、たいへん、きわめて、非常に、ずいぶん
「結構」類：結構、なかなか、わりに、ばかに、やけに、
「多少」類：多少、すこし、ちょっと、やや、いささか、かなり
「もっと」類：もっと、ずっと、よほど、いっそう、はるかに、いちだんと

「もっと」類と「多少」類の程度副詞は、次の用例（6）のように比較構文に使われるのに対して、「とても」類と「結構」類の程度副詞は、用例の（7）ように非比較構文[3]にしか使われない。

（6）ひかりはこだまよりもっと速い。（比較構文）
彼は彼女より多少すなおだ。（比較構文）
（7）リスはとても可愛い動物だ。（非比較構文）
新しい店だが結構はやっている。（非比較構文）
*ひかりはこだまよりとても速い。（比較構文）
*新しい店のほうが古い店より結構はやっている。（比較構文）

中国語において、比較を表す構文に程度副詞を用いることが可能かどうかを考察した研究には、王力（1985）、马真（1988）、周小兵（1995）、张亚军（2002、2003）などがある。

王力（1985：131-132）では、“程度副词可分为绝对的和相对的两种：（一）凡无所比较，但泛言程度者，叫做绝对的程度副词（程度副詞は絶対的なものと相対的なものとの二種類に分けられる。比較することを視野に入れないで、ただ常識的に程度を表すものを絶対的程度副詞という）[4]”、“（二）凡有所比较者，叫做相对的程度副词（比較することを視野に入れて程度を表すものを相対的程度副詞という）”と述べられている。ただ、王力（1985）がいう相対的程度副詞には、比較構文に用いることができる程度副詞“更（「もっと」の

意)”だけではなく、三者もしくは三者以上の比較を表す程度副詞“最（「最も」の意)”も含まれている。

马真（1988）では、まず程度副詞を意味的に程度大と程度小に分け、それから王力（1985）が提唱した絶対的程度副詞と相対的程度副詞の分類の合理性を以下のⅠ～Ⅵの6つの比較を表す構文により検証している。この6つの構文の中の（Ⅵ）“X比Y+F+AP”は、中国語で“比”構文と言われ、日本語の比較構文に相当する。

Ⅰ. 相比之下，X+F+AP　（「比べてみると、XはF+AP」の意。
「F」は程度副詞、「AP」は形容詞句を示す。）
Ⅱ. 比较起来，X+F+AP　（「比較してみると、XはF+AP」の意）
Ⅲ. 跟Y相比，X+F+AP　（「Yと比べると、XはF+AP」の意）
Ⅳ. 比起Y来，X+F+AP　（「Yと比べてみれば、XはF+AP」の意）
Ⅴ. 在……中／上，X+F+AP　（「……の中で、X+F+AP」の意）
Ⅵ. X比Y+F+AP　（「XはYよりF+AP」の意）

马真（1988）は上記の手順を踏まえて、中国語の程度副詞を“很”類、“最”類、“更”類、“稍微”類、“比较”類、“有点儿”類に分類している。それぞれ以下の通りである。

“很”類：很、挺、十分、万分、非常、异常、太、极、极端
“最”類：最、最为、顶
“更”類：更、更加、更为、越发、越加、愈加、还$_1$[5]
“稍微”類：稍微、稍、稍稍、多少、略微、略略
“比较”類：比较、较、较为、还$_2$
“有点儿”類：有点儿、有些

马真（1988：85）は各類の程度副詞を“比”構文との関係などの観点から次の表1のようにまとめている。つまり、程度大の“很”類と程度小の“有点儿”類は程度の比較を表さないため、当然“比”構文に用いることができない。二者の比較を表す“更”類と程度小の“稍微”類は、“比”構文に用いることができる。しかし、“最”類と“比较”類は、意味的には程度の比較を表

すが、文法的には“比”構文に用いることができない。马真（1988）の考察は、意味的側面と文法的側面の両方を考慮しているため、程度副詞の性格をより一層明らかにしていると思われる。

表１　马真（1988）における程度の大小と“比”構文に出現可能かによる中国語の程度副詞の分類

	程度副詞	比較を表せるか否か	“比”構文[6]に使用可能か否か
程度大	很	－	－
	最	＋	
	更		＋
程度小	稍微	＋	＋
	比较		－
	有点儿	－	

さらに、张亚军（2002：141-172）では、“比”構文に使用可能か否か、疑問詞疑問文[7]に使用可能か否かという２つの基準に基づき、程度副詞を“更”類、“最”類、“很”類と大きく三分類している。疑問詞疑問文とは、例えば“谁去最合适？（誰が一番相応しいですか。）／什么时候去最合适？（いつ行くのが一番いいですか。）／哪里最安全？（どこが一番安全ですか）”のように、“谁（誰）、什么时候（いつ）、哪里（どこ）、哪个（どれ）、怎么（どう）”などの疑問詞が含まれる疑問文のことである。“最”類と“很”類はどちらも“比”構文に使うことができないが、“最”類は疑問詞疑問文に用いることができ、“很”類はできないという点で、両者は異なっている。张亚军（2002）では、程度の大小によって“更”類はさらに２つのグループ、“很”類は４つのグループと細かく分けられているが、ここでは詳述しない。

“更”類：更、更加、更为、还$_1$、越发、稍、稍微、稍稍、
略、略微、多（了）、远
“最”類：最、顶、（比）较$_1$、较比、较为
“很”類：太、过、过于、极（极其、极为、极端、极度）、非常、
很、相当、十分、格外、分外、特别、尤其、（比）较$_2$、
有点儿、有些、还$_2$、挺、怪、特、甚、颇、坏、死、透、
绝顶、绝伦、透顶

中国語において、程度副詞が比較の意味を表すかどうかを考察する際、马真(1988)のように6つの構文を用いることがよくある。しかし、张亚军(2002:142)が述べているように、“纵观各家对程度副词的分类可以发现,‘比’字句是鉴别程度副词是否具有比较功能的理想标准;除此之外,学者们通常使用的还包括‘在……中,NP[程度副词]A’以及“与……相比,NP[程度副词]A等模式,但是此类格式并不单纯表示比较,还具有对比功能,作为分类标准排他性不强。(各研究者の程度副詞に対する分類の仕方を見渡せば、‘比’構文は程度副詞が比較を表すかどうかを識別する理想的な基準である。‘比’構文以外に、‘在……中,NP[程度副词]A’と‘与……相比,NP[程度副词]A’もよく使われているが、このような構文は単純に比較を表すわけではなく、対比の機能が付いており、程度副詞の分類基準としてあまり適切ではない)”。本稿では、张亚军(2002)の指摘が妥当であると考え、“比”構文を程度副詞が二者の程度の比較を表すかどうかを判定の基準とする。これについては、劉傑(2015)にも同様の指摘がある。

3.4　程度副詞が含意する評価性・主観性

程度副詞の評価性について、渡辺(1990)では、程度が小さいことを表す「多少」類は、比較構文に用いられる際には、プラス評価の語でもマイナス評価の語でも修飾することができるが、非比較構文に用いられる際には、プラス評価の語を修飾することができなくなると指摘されている[8]。

(8) 彼は彼女より多少すなおだ。(比較構文+プラス評価)
彼は彼女より多少なまいきだ。(比較構文+マイナス評価)
彼は多少なまいきだ。(非比較構文+マイナス評価)
*彼は多少すなおだ。(非比較構文+プラス評価)

一方、非比較構文に使われる「結構」類は、「多少」類と異なり、プラス評価の語を修飾することができるが、マイナス評価の語を修飾しにくい。

(9) 結構おもしろい/きれいだ/速い(プラス評価)
*結構つまらない/きたない/遅い(マイナス評価)

「結構、なかなか」の主観性・評価性について、田和（2011）では、次のように述べられている。「結構、なかなか」は「自分視点に基づくことがら評価」の機能を持っている。そのため、次の用例（10）は「自分の経験した暑さを基準とした評価を表すため、他者との共感性にやや欠けた独り言」のような文となる。また、用例（11）は、用例（12）に比べて他人の息子の成長を自分視点で評価することとなり、少し失礼な印象を与える文である。（同 p.33）

（10）今日は、結構／なかなか暑い。
（11）息子さん、結構／なかなか大きくなりましたね。
（12）息子さん、随分大きくなりましたね。

程度の比較を表す「もっと」の主観性について、木下（2001）では、「もっと」は「比較の基準側に視点を置き、その基準に対してもう一つの対象を比較する表現」であり、「『もっと』による比較では視点が基準となる」ことが主張され、「もっと」の用法を統一した観点から説明しようとしている。例えば、木下（2001：19-20）では、次の用例（13）について、「比較基準が示されていない場合、『もっと』は比較基準が現状であると解釈されるが、『より』は比較基準を特定しないまま解釈される」と指摘されている。つまり、「もっと豊かな暮らし」とは、「現在の状態より豊かな暮らし」という意味であるが、「より豊かな暮らし」とは、どこを基準にしようとその基準より豊かな暮らしという意味である。

（13）人々はもっと／より豊かな暮らしを求めている。（木下 2001：20）

木下（2001：22）によると、次の用例（14）で「もっと」が容認されないのは比較基準となる状態が比較に先立って示されておらず、比較の基準とする視点が置かれていないからである。これに対して、「より」は特定の基準を必要としないため、用例（14）で容認される。また、用例（15）では、「梨も好き」という形であらかじめ比較基準が示されており、そこに視点を置くことができるため、「もっと」が使用できる。

（14）A：太郎と次郎とどちらの方が背が高いですか。
　　B：太郎のほうが ?? もっと／より高いです。（木下 2001：22）
（15）A：葡萄と梨とどっちの方が好き？
　　B：梨も好きだけど、葡萄の方がもっと好き。（木下 2001：16）

马真（1988:86）では、“有点”は“脏（汚い）、大（大きい）”などマイナス評価もしくは中立の語を修飾することができるが、“干净（きれいだ）”などプラス評価の語を修飾することができないと述べられている。周小兵（1995:101-103）では、絶対的程度副詞のうちの程度小を表す“有点、有些”は“漂亮（きれいだ）、平静（穏やかだ）”などのプラス評価の語を修飾できないのに対して、相対的程度副詞のうちの程度小を表す“还$_2$”“多少”は、“好（良い）、方便（便利だ）”のようなプラス評価の語もしくは“浅（浅い）、亮（明るい）”のような評価性を帯びていない中立の語を修飾すると指摘されている。さらに、劉傑（2015）は、日本語の程度副詞「多少」と中国語の程度副詞“多少”を比較し、両者の共通点と相違点を明らかにしたうえで、程度の小さいことを表す程度副詞が評価性を持ちやすい理由を指摘している。しかし、中国語と日本語の程度副詞の評価性について体系的に比較対照を行った研究は見当たらない。

また、程度の比較を表す“更”と“还”の違いについて、胡斌彬・车录彬（2010）、宗守云（2011）などでは、“还”は意外性を帯びているが、“更”は帯びていないと述べられている。しかし、程度を規定する“还”は程度を表すのが本来の役割であるため、“还”と“更”の核心的な違いは程度の表し方にあり、意外性を帯びているかどうかはその程度の表し方の相違から生じた付随的なものであると考えられる。中日対照研究において、比較を表す程度副詞のうち、よく比較されるのは“更”と「もっと」であるが、上述のように、“更”の語彙的意味[9]が明らかにされていないため、被修飾語が行為動詞であるか否かという相違の考察にとどまってしまうことが多い。

3.5　程度副詞とモダリティ表現の共起

程度副詞とモダリティ表現の共起に関しては、主として程度副詞が命令（もしくは依頼）・願望および否定とともに使用可能かどうかについて研究がなされている。

日本語の程度副詞と命令（もしくは依頼）・願望との共起を考察した研究には、丹保（1981）、奥村（1995）などがある。

丹保（1981：26）は、「程度副詞＋たくさん（または、ゆっくり）＋食べ（る）＋文末表現」構文における程度副詞と命令・願望・否定などの共起状況を次の表のように示している。

表2「程度副詞＋たくさん（または、ゆっくり）＋食べ（る）＋文末表現」構文における程度副詞と文末表現の共起状況

程度副詞 / 文末表現	非常に、かなり、極めて、随分など	少し、ちょっと、やや	もっと、ずっと
意志（ヨウ）	×	○	○
勧誘（ヨウ）	×	○	○
推量（ダロウ）	○	○	○
否定（ナイ）	×	×	○
否定意志（マイ）	×	×	△
否定推量（マイ）	×	×	△
命令（ロ）	×	○	○
願望（タイ）	×	○	○
不確定断定（ソーダ）	○	○	○
伝聞（ソーダ）	○	○	○
過去（タ）	○	○	○

※　○は可、△は不明、×は不可を示す。

この表2から、「もっと」類、「少し」類、「非常に」類が量の副詞あるいは状態副詞を介在して文末表現と共起する際の異同がわかる。まず、「もっと」類は、その語彙的意味として累加性を有するもので、否定の共起において、他のグループとは異なる共起状況を示している。次に「非常に」類と「少し」類は、いずれも推量「ダロウ」、不確実断定「ソーダ」、伝聞「ソーダ」、いわば広い意味で事実に対する判断としての表現と共起できるが、否定、および否定を含む表現とは共起できない。最後に、「少し」類と「もっと」類は意志「ヨウ」、勧誘「ヨウ」、命令「ロ」、願望「タイ」と共起できるのに対して、「非常に」類はこれらの文末表現と共起できない。丹保（1981:27）では、程度が小さいことを表す「少し」などは意志「ヨウ」、勧誘「ヨウ」、命令「ロ」、

願望「タイ」と共起できるのに対して、程度が大きいことを表す「非常に」はこれらの文末表現と共起できないと述べられている。文末表現との共起に違いがある原因について、「少し」はより概念化されたものであるのに対して、「非常に」は言語主体の直接的表出の要素を秘めているため、文末の主観的表出と反発するというところにあると指摘されている。

程度副詞と命令・依頼表現の共起については、共起制限が明白であるため、研究者に注目されやすく、特に林（1997）では比較構文に使用可能かどうか、評価性があるかどうか、川端（2000）では程度副詞が表す情報が確定的な情報であるかどうか（すなわち、聞き手にとって要求された行為を理解するための比較基準が明確かどうか）という観点から検討され、その共起制限の原因が明らかにされている。これに対して、程度副詞と願望表現の共起については、共起制限がないように見えるために、共起の実態はまだ十分に分析されていないと思われる。渡辺（1997）は、「もっと」と「ずっと」を比較し、「『もっと』は命令・要求などの話し手の心理や主観を表す場合に命題の外で機能することが可能であるといえるが、一方『ずっと』においては、そのような話し手の心理的描写といったことは関係なく命題の外では働かないということがいえる。」と指摘している。例えば、用例（17）では、「（今飲んでいるコーヒー）よりもっとまともなコーヒー」を話し手は要求している意味に解釈できる（同 p.72）。しかし、程度副詞と願望表現の統語構造について、渡辺（1997：72-74）では、用例（17）の「もっと」はそれに後続する「（私は）まともなコーヒーが飲みたい」という節全体にかかると述べられているが、劉傑（2017a：90）が指摘したように、「もっと＋動詞連用形＋たい」構文と「もっと＋形容（動）詞＋動詞連用形＋たい」構文の場合、「もっと」は助動詞「たい」までかかるのではなく、「たい」の前の部分にかかるのである。

（16）「もっと判るように説明しろってんだ」『グリーン・レクイエム』
（用例（16）（17）は渡辺 1997：72 より）

（17）「ねえ、佳拓ちゃん、他の店行こう。あたし、もっとまともなコーヒーが飲みたいな。」『宇宙魚顛末記』

また、中日対照の立場から程度副詞と願望表現の共起を考察した主要な研究に、陳建明（2012）と時衛国（2015）がある。

陳建明（2012：222-224）では、日本語の「もっと」と中国語の“更”はいずれも願望表現と共起できるという共通点だけが指摘されている。しかし、日本語と中国語は構文が異なる。中国語は語順が重視される言語であり、程度副詞が願望を表す“想”の前に現れるかその後に現れるかによって程度副詞のかかり先が異なる。これに対して日本語では願望を表す「たい」は常に述語動詞の後に現れ、程度副詞は述語動詞の前に現れる。したがって、願望表現と共起する中日両国語の程度副詞を比較対照するには、文の内部構造をしっかり把握する必要があると考えられる。

時衛国（2015:54-55）では、量性を持つ程度副詞は願望表現の動作的側面を修飾し、量性を持たない程度副詞は願望表現の状態的側面を修飾することが述べられている。つまり、程度副詞が行為量を規定できることが願望表現の動作的側面を修飾するための一つの条件になっていると主張しているように読み取れる。しかし、この説では、「より」「一層」などの行為量を限定できない日本語の程度副詞が願望表現の動作的側面を修飾しうる理由を説明することができない。時衛国（2015）でも程度副詞と願望表現の共起関係を十分に考察しきれていないと言える。

程度副詞と否定形式との共起に関する研究は、丹保（1981）のほかに工藤（1983、2000）などがある。特に、工藤（2000：103-109）では、基本的に肯定形式に偏る「非常に、たいへん、ずいぶん、かなり」は「不自然、不作法」のような語彙的否定形式を修飾しうることを根拠として、語彙的否定形式と「来ない、若くない、親切ではない」のような文法的否定形式では否定のあり方が異なっていると指摘されている。

中国語の程度副詞と否定形式の関係について、张谊生（2000:29）では、“有些程度副词可以用在否定副词前后，在前是程度副词修饰‘不VP’，在后是‘不’修饰程度副词。（程度副詞の中に、否定副詞[10]の前あるいは否定副詞の後に用いることができるものがある。否定副詞の前にある場合は、程度副詞は‘不VP’を修飾するのであるが、否定副詞の後にある場合は、程度副詞は‘不’の修飾を受けるのである）”と指摘されている。例えば、“很不礼貌”という文では、“很”は“不”の直前に置かれ、その程度を修飾限定する。“不很礼貌”という文では、“很”は“不”の直後に置かれ、“不”の否定を受けている。

赵素萍（2004：75）では、中国語の“更、极、非常、很、有点”と日本語の「もっと」は否定形式と共起しうると指摘するにとどまる。時衛国（2009）

では、“很、相当、有点”は否定形式を修飾することができ、「とても、相当、少し」は「足りない」のような否定形式以外には否定形式を修飾することができないと指摘されている[11]。さらに、劉傑（2017b）は、程度副詞と否定のスコープの関係という点に着目し、中国語の程度副詞が否定形式を修飾できるのに対して、日本語の程度副詞「とても、相当、少し」は否定形式を修飾しにくい原因を指摘している。

（18）被災地では食料も毛布も相当足りない。（時 2009：155）

3.6　その他

周知のように、中国語と異なり日本語は話し言葉と書き言葉の差が顕著な言語である。程度副詞にも話し言葉と書き言葉の差異がある。例えば、前述の観点に文体や改まり度などの観点を付け加えて考察する研究には、片山・舛井（2006）、渡辺（2010）などがある。片山・舛井（2006）では、初級、中級の日本語学習者に教える程度副詞の中から「とても、すごく、非常に、大変」といった程度が大きいことを表す程度副詞を抽出し検討を加えた上で、次のように述べている。

> 各々の語の異同を考える際に注目すべき特徴として、まず、主に用いられるのが話し言葉であるかそれとも文章語であるかという点が挙げられる。次に改まった文脈で用いられるか、くだけた文脈で用いられるかという違い、さらに、語彙的特徴として主観的か、客観的かという点も注目される。（同 pp.48-49）

具体的には、「とても」は「直接的な感謝やお詫びの言葉、ねぎらいの言葉とは共起しにくい」（同 p.34）。「非常に」は、「改まった場面で客観的に伝えたいときに用いられ」（同 p.46）、「大変」は「目上の人やお客などの相手に対する丁寧さを出したいときに使われ」、「会話文でも、書き言葉でも、聞き手の存在を意識した場合に用いられる傾向がある」（同 pp.46-47）。また、これらの程度副詞はいずれも「否定文、比較構文、あるいは命令、依頼、勧誘、意志などを表す文ではその使用が制限される」（同 p.38）。これらの程度副詞の共通点と相違点は、次の表のようにまとめられている（同 p.49）。

表3　片山・雅子（2006）における程度副詞の考察

	とても	すごく	ひどく	非常に	大変	本当に
1. 話し言葉	○	○	○	△	○	○
2. 文章語	○	×	×	○	○	△
3. 改まった場面	×	×	○	○	○	○
4. くだけた場面	○	○	○	×	×	○
5. 主観的	○	○	○	×	×	○
6. 客観的	×	×	○	○	○	×
7. 否定文	×	×	×	×	×	△
8. 比較構文	×	△	△	△	△	○
9. 依頼・命令などの文	×	×	×	×	×	×
10. 感謝・ねぎらいの文	×	×	×	×	○	○
11. お詫びの文	×	×	×	△	○	○

○は該当するもの、あるいは使える場合を、×は該当しないもの、あるいは使えない場合を、△はある条件の下で使えることを表す。

渡辺（2010）でも、「きわめて、非常に、とても、けっこう、ずいぶん」のうち、「きわめて」が論説文の文体にもっとも適切な表現であり、「とても、けっこう、ずいぶん」は論説文には不適切な表現であると指摘されている。さらに、「非常に」は「とても」よりは書き言葉的な表現であると述べられている。

4　おわりに

本稿は、語彙的意味と統語構造という二つ側面から中日の程度副詞の研究動向を概観し、まだ十分に明らかにされていない課題を述べた。中日対照研究に関する従来の研究では、主として被修飾語が状態動詞であるか動作動詞であるかに分析の重点が置かれており、程度副詞自体の語彙的意味についての分析は十分になされているとは言えない。また、程度副詞と否定・願望などのモダリティ表現との共起に関しても、共起するかしないかという表層的な面に目を向けているだけであり、内部構造にまで踏み込んだ分析はあまり見られない。程度副詞自体の語彙的意味、文末のモダリティ表現と形成する統語構造を明らかにし、程度副詞が文中で果たす役割をより明確にすることを今後の課題とする。

注

[1] 仁田（2002：172-180）は、純粋程度副詞は、状態動詞、非限界変化動詞、心的活動動詞、態度の現れに関わる動きを表す動詞と共起すると指摘している。

状態動詞：似る、すぐれる、違う、効果がある　など

非限界変化動詞：温まる／温める、冷える／冷やす、高まる／高める　など

心的活動動詞：恨む、驚く、怒る、苦しむ、楽しむ、喜ぶ、心配する　など

態度の現れに関わる動きを表す動詞：重視する、助ける、努力する　など

[2] 张谊生（2004：57）は、“稍微”は心理動詞を修飾することができないが、ある行為を実施する際は“留神（気を付ける）、注意（注意する）”と共起することができるということも指摘している。

[3] 渡辺（1990）では、「非比較構文」は「計量構文」と呼ばれている。

[4] 日本語訳は時衛国（2009：13）によるものである。

[5] 马真（1988）では、“还”は“还$_1$”と“还$_2$”に分けられている。比較構文に用いられ、程度が大きいことを表す“还”は“还$_1$”とし、比較構文に用いられず、程度が小さいことを表す“还”は“还$_2$”とする。

[6] “比”構文は、“X 比 Y 程度副詞 P”構文のことであり、日本語の「X は Y より程度副詞 P」構文に相当する。

[7] 张（2002）では、“特指问句”という用語が使われているが、「疑問詞疑問文」という日本語訳は藤堂・相原（1985）を参考にした。

[8] 渡辺（1990）には、「ちょっと」について次のような指摘がある。「『ちょっと』は現在ここに述べたような用法からは外れた形で使われることが多くなっている。例えば、『あの男性、ちょっとすてきね。』『ちょっと洒落たネクタイピン。』などと、プラス評価の語と共起することは稀ではないし、『ちょっとお手上げと言う所だね。』『ちょっと高嶺の花なんじゃないか。』などといった用法すらありそうである。後者は言わば言表誘導の誘導副詞であり、こういう方向が意識されれば、マイナス評価の線などは軽く超えられてしまうだろう。」

[9] 語彙的意味とは、物、事、動き、状態や状態のあり様などといった世界の一断片を、ある切り取り方で切り取って表したものである。名詞のように素材的・対象的性格の高いものから、感動詞やいわゆる陳述副詞のように、話し手の心的態度を内容とするもの、さらに、接続詞のように、文と文との関係を・つながりのあり方を表す、といったものまで多岐にわたっている。（益岡、ほか 1997：34）。

[10] 中国語では、“不”を否定副詞とも言う。

[11] “很”と「とても」は時（2009：133-136）、“相当”と「相当」は時（2009：152-136）、“有点”と「少し」は時（2009：266-271）を参照。

参考文献

胡斌彬・车录彬（2010）「“X 比 Y 还 W”构式的语用信息功能」《湖北师范学院学报》（哲学社会科学版）2010 年第 6 期、pp.37-39

季　　薇（2011）《现代汉语程度副词研究》光明日报出版社

蔺璜・郭姝慧（2003）「程度副词的特点范围与分类」《山西大学学报》（哲学社会科学版）第 26 卷第 2 期、pp.71-74

麻彩霞（2013）《现代汉语“相对程度副词 + 动 + 宾”发展演变研究》中国社会科学出版社

马　　真（1988）「程度副词在表示程度比较的句式中的分布情况考察」《世界汉语教学》1988 年第 2 期、pp.81-86

王　　力（1985）《中国现代语法》商务印书馆

张亚军（2002）《副词与限定描状功能》安徽教育出版社

————（2003）「程度副词与比较结构」《扬州大学学报（人文社会科学版）》第 7 卷第 2 期、pp.60-64

张谊生（2000）《现代汉语虚词》华东师范大学出版社

————（2004）《现代汉语副词探索》学林出版社

————（2010）《现代汉语副词分析》上海三联书店

赵素萍（2004）「日汉程度副词『もっと』与“更”的对比略论」《徐州师范大学学报（哲学社会科学版）》第 30 卷第 5 期、pp.73-75

周小兵（1995）「论现代汉语的程度副词」《中国语文》1995 年第 2 期、pp.100-104

宗守云（2011）「“X 比 Y 还 W”的构式意义及其与“X 比 Y 更 W”的差异」《华文教育与研究》总第 44 期、pp.79-85

奥村大志（1995）「『もっと』についての考察」『日本語教育』(87)、pp.91-102

片山きよみ・舛井雅子（2006）「初・中級レベルの日本語教育で教える程度副詞—とても・大変・非常に・すごく・ひどく・本当に—」『熊本大学留学生センター紀要』9、pp.25-53

川端元子（2000）「聞き手への行為要求表現と程度副詞—共起制限理由の再検討—」『名古屋大学国語国文学』(86)、pp.64-78

木下恭子（2001）「比較の副詞『もっと』における主観性」『国語学』52（2）、pp.16-29

工藤　浩（1983）「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』明治書院、pp.176-198（再録：工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房、pp.99-121）

工藤真由美（2000）「否定の表現」『時・否定と取り立て』岩波書店、pp.95-150

佐野由紀子（1998a）「程度副詞と主体変化動詞との共起」『日本語科学』(3)、pp.7-22

————（1998b）「比較に関わる程度副詞について」『国語学』195 集、pp.99-112

————（2006）「動きに関わる量について—量的程度副詞と動詞との共起関係から—」『高知大国文』(37)、pp.79-88

時衛国（1999）「中国語と日本語における程度副詞の対照研究―『更』『〔カン〕』と〈もっと〉〈さらに〉―」『コミュニケーション科学』（10）、pp.3-26

――――（2003）「程度副词与形容词的否定形式」『教養と教育：共通科目研究交流誌』（3）、pp.23-31

――――（2004）「程度副词与动词的否定形式」『愛知教育大学研究報告（人文・社会科学）』（53）、pp.111-116

――――（2008）「中日両語の程度性と量性の表わし方について」『愛知教育大学研究報告（人文・社会科学）』（57）、pp.109-115

――――（2009）『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』風間書房

――――（2011a）「特別 / 格外 + 被修饰语 + 量性成分」『愛知教育大学研究報告（人文・社会科学編）』（60）、pp.81-85

――――（2011b）『中国語の程度表現の体系的研究』白帝社

――――（2015）「程度副詞の対照研究―願望のモダリティ―」『日本語と中国語のモダリティ』、pp.40-63

田和真紀子（2011）「程度副詞の評価性をめぐって」『宇都宮大学教育学部紀要』第1部 61、pp.25-36

丹保健一（1981）「程度副詞と文末表現―『ひじょうに』を中心に―」『金沢大学語学・文学研究』（11）、pp.22-30

陳　建明（2012）「程度の比較に関わる日本語の『もっと』『さらに』と中国語の『更』『更加』の相違について」《汉日语言对比研究论丛》（第3辑）、pp.218-230

唐先容・加藤久雄（2003）「中国語・日本語パラレルコーパスを用いた小さな程度を表す副詞に関する考察」『奈良教育大学紀要（人文・社会科学）』52(1)、pp.1-16

仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版

林奈緒子（1997）「程度副詞と命令のモダリティ」『日本語と日本文学』（25）、pp.1-10

藤堂明保・相原茂（1985）『新訂中国語概論』大修館書店

益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水敏（1997）『岩波講座　言語の科学5　文法』岩波書店

森山卓郎（1985）「程度副詞と動詞句」『京都教育大学国文学会誌』（20）、pp.60-65

劉　　傑（2015）「程度副詞『多少』の評価性に関する中日対照研究」『比較日本文化学研究』（8）、pp.70-89

――――（2016）「程度副詞“更”と“还”の意味内容に関する一考察」『比較日本文化学研究』（9）、pp.25-47

――――（2017a）「程度副詞と願望表現の修飾構造」『日中言語対照研究論集』（19）、pp.85-102

――――（2017b）「程度副詞と否定形式の統語構造に関する中日対照研究―中国人日本語学習者の誤用を手がかりに―」《日语偏误与日语教学研究》（第二辑）、pp.126-140

渡辺史央（1997）「『もっとずっとZ』をめぐって―『比較性』としての意味機能の観点から―」『日本語・日本文化』(23)、pp.67-84

――――（2010）「論理的文章における程度副詞について―文体差と意味的用法の観点から比較を表す程度副詞を中心に―」『ニダバ』(39)、pp.106-115

渡辺　実（1990）「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』23、pp.1-16